



Sun Fire™ E2900/V1280 システム PCI+ ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4748-10
2005 年 11 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire E2900/V1280 Systems PCI+ Product Notes
Part No: 819-4657-10
Revision A



PCI+ ご使用にあたって

注 – 正常に動作させるには、PCI+ のサポートを追加する I/O アセンブリをシステムに取り付けてから、Solaris オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。Solaris 9 OS の場合は、Solaris 9 9/05 以降のバージョンを再インストールしてください。Solaris 10 OS の場合は、Solaris 10 3/05 HW1 以降のバージョンを再インストールしてください。

本書では、Sun Fire E2900/V1280 システムを PCI+ I/O アセンブリ (IB_SSC アセンブリ) にアップグレードする際に、重複する MAC アドレス指定を修正する手順について詳細に説明します。

PCI+ をサポートするようにアップグレードした Sun Fire E2900/V1280 システムでは、ユーザーが IP マルチパスを実行する場合に EEPROM の変数である local-mac-address? が true に設定されていると、現行バージョンの OpenBoot™ PROM は、両方の Ethernet インタフェース全体に同一の MAC アドレスを割り当てます。

重複する MAC アドレスを修正するには、OpenBoot PROM コマンドを作成し、システムを起動するたびに ok プロンプトから実行する必要があります。

手順として、ok プロンプトで次のように入力します。

コード例 1 add-local-mac コマンドの追加

```
ok : add-local-mac
" /ssm@0,0/pci@18,700000/network@1" begin-select-dev
" local-mac-address" delete-property
mac-address      encode-bytes " local-mac-address" property
end-select-dev

" /ssm@0,0/pci@18,700000/network@3" begin-select-dev
" local-mac-address" delete-property
mac-address over 5 ca+ dup c@ 1 + swap c!
encode-bytes " local-mac-address" property
end-select-dev
mac-address drop 5 ca+ dup c@ 1 - swap c!
;
```

コード例 1 に示すようにテキストを入力すると、コマンド add-local-mac が作成されます。このコマンドが作成されたら、必ず一度実行する必要があります。コマンドを一度実行すると、システムが再起動され、Ethernet インタフェースに適切な MAC アドレスが割り当てられます。

注 - add-local-mac コマンドは、システムを再起動するたびに必ず一度実行する必要があります。

コマンドを作成し、システムを起動してから、システムに対して入力した add-local-mac コマンドの例を次に示します。

コード例 2 add-local-mac コマンドの実行

```
{10} ok : add-local-mac
] " /ssm@0,0/pci@18,700000/network@1" begin-select-dev
] " local-mac-address" delete-property
] mac-address      encode-bytes " local-mac-address" property
] end-select-dev
]
] " /ssm@0,0/pci@18,700000/network@3" begin-select-dev
] " local-mac-address" delete-property
] mac-address over 5 ca+ dup c@ 1 + swap c!
] encode-bytes " local-mac-address" property
] end-select-dev
] mac-address drop 5 ca+ dup c@ 1 - swap c!
] ;
{10} ok add-local-mac
{10} ok
```